

できるすべてのことをする

彼らは水がめを縁までいっぱいにした。(ヨハネ2:7)

宴会は始まったものの、すでにぶどう酒が切れてしまいました。店はすでに閉店、代替案ありません。人の力では、バツの悪い状況は避けられそうにありません。しかし、マリヤはその不可能に手を差し伸べます。彼女はイエスに話します。「わたしの時はまだ来ていません。」とイエスは答えますが、マリヤは母親の直感で何かが起こると感じます。彼女は、しもべたちに「彼が言われることを何でもしてあげてください。」と指示します。そして、その後の出来事は歴史となりました。彼らは水がめを水で満たし、イエスは彼らの最小の努力をあふれるばかりの恵みで満たします。

この出来事をどのように私の人生に適用できるでしょう。できることすべてが尽き果てたと感じるとき、私にも同じ事が求められています。自分の至らなさが暴露され、できることはもう何もありません。理想の自分に近づく術も、持ちあわせていません。人の力では、本来の自分の姿である、あわれなクリスチャンとしての私が露呈し、恥をかくことは避けられそうにありません。しかし、その不可能に私は手を伸ばします。イエスに告げるのです。私が解放される時は来ていないかもしれませんが、間もなく何かが起こると信仰が教えてくれます。

イエスは、しもべたちに指示を与えます。「水がめの縁まで水で満たしなさい。」彼は同様に私にも告げます。「人の力でできることは、何でもしないさい。」貧弱なままの自分自身を差し出し、「水がめの縁まで水で満たすため」私ができるすべてのことをします。これは、私の捧げものです。未熟なままの状態、私のすべてを主の手に明け渡します。私の内にあるものは、極上のぶどう酒ではありませんが、これが手元にある中で最上のものです。しもべは、言われた事をします。そして、イエスは彼らにこう言われます。「さあ、今くみなさい。そして宴会の世話役のところに持って行きなさい。」イエスは同じ事を私にも言われます。「今行って、あなたができることをしなさい。」イエスも私も、水がめに入っているのはただの水だと知っていますが、とにかくゲストにそれを出します。

しもべがイエスに従うと、彼らは柄杓からくみ出されたものに驚嘆します。水がぶどう酒に変えられただけでなく、初めに与えられたぶどう酒よりはるかに上質のものだったからです。同様に、信仰によって行動した私も、自身のわずかな努力を遥か上質な捧げものにイエスが変えてくださったことに驚きを隠せません。

カナの結婚における主の最初のしるしは、「ワインが切れた」状況に私たちが置かれた時に適用できる教えが多く含まれています。「ワインが切れた」状況とは、すなわち自身の霊的貧しさという真実に直面する時です。そのような時、この

話が教えるように私たちはまず、マリヤが行なったことをすべきです。つまり、現実をそのまま受け入れることです。ワインの樽は、確かに空になりました。それを否定する必要はありませんし、他の人にその事実を隠す必要もありません。その時、私たちはイエスの所に行き、私たちの「不可能な」状況について彼に話します。この時点において、人の力ではどうしようもない状況であっても。

しかし、私たちの問題をただイエスに投げ出す前に、水がめの縁ぎりぎりの所まで自分たちにできる努力で満たすべきです。別の言葉で言い換えると、できる、できないに関わらず、私たちが始めた小さな働きに主が恵みを加えてくださるのですから、主がおできになることに決して希望を失ってははいけません。

質問：

- 1 人の力でできると思われるビジョンに留まることなく、「不可能に挑む」よう求められている状況が、あなたの人生でありますか。
- 2 自分の力ではできないとわかっているにもかかわらず、「水がめの縁まで」水で満たし続けるためには、どのような信仰が要求されていますか。イエスが不思議な恵みの備えによってあなたの努力をすばらしいものに変えてくださると、どれほど確信を持って言えますか。
- 3 あなた自身の取るに足らない努力が、あなたの想像を遥かに超えて豊かな実を結んだ状況を思い出す事ができますか。もし適切なら、他の人とそのことを分かち合ってください。

祈り：

祈りの中で、あなたの人生で不可能と思えるようなことに着手するよう神が求めておられる状況を考えてみてください。信仰が求められるような何かを経験してみてください。そして、そのような不可能な信仰を経験する喜びを想像してみてください。